

## 今村和彦作 「新学期」

- ナレーション この物語は 1980 年代の東京。今日は始業式です。桜の花咲く中を、新しい学年への期待と不安とに胸を躍らせながら、ここ青春高校の生徒たちは、思い思いに登校してきました。そして、クラス替えの発表です。
- 効果音 (教室のガヤ)
- 吉本 おい、林、また同じクラスだぜ。B組だってよ。また一緒に悪いことできるな。
- 林 ケ！ お前とは 1 年の時からずっと一緒だったもんな。腐れ縁ちゅうやつだな。で、先公は誰だ？
- 吉本 荒木。
- 林 何？ あの“鬼の荒木”か。チェ、ツイてねえな。一緒に怒られそうな連中で、他にどんなやつがいる？
- 吉本 田舎っぺ大将の伊藤だとか…。そうだな、あまりパツとしたやつ、いねえな。その代わり、イヤなやつがいるぜ。
- 林 誰だ？
- 吉本 ガリ勉の松本。
- 林 あのクソ真面目な野郎か。ふん、かわいがってやろうじゃねえか。女はどうだ?!
- 吉本 よくぞ聞いてくれた。それが“語るも涙、聞くも涙”のお粗末な話。まるで“ハキダメ”。
- 林 ケ！ なんてこった。“鶴”はいねえのか、“鶴”は！
- 吉本 一人知らねえ女の名前があったぜ。白鳥直美ってんだ。転校生じゃねえか？
- 林 “白鳥直美”、いい名前だな。そいつに望みをつなぐとしよう。
- ナレーション さて、始業式が終わって、ここは新しい3年B組の教室。最初の時間の前、2年の時、同じクラスだった仲間同士が、グループを作っておしゃべりをしています。中には独りでポツンと座っている人も何人かいます。
- 女子1 (小声で)ねえねえ、今度のクラス、面白そうじゃない？
- 女子2 (小声で)ほんと。校内きってのワルの林君もいるし、荒木先生との対決が楽しみだわ。
- 女子1 それに、私のあこがれの伊藤君もいるし…。
- 女子2 秀才の松本君もいるわ。彼ってなかなかかわいいところあるのよ。この前私がからかったら、すぐ真っ赤になっちゃったんだから。
- 2人 (笑い)
- 効果音 (始業のチャイム)
- ナレーション 担任の荒木先生が一人のかわいい女の子を連れて入ってきました。
- 林 おい、まさに“ハキダメの鶴”。
- 吉本 言えてる。
- 林 あれは、俺がもらった。
- 荒木先生 やあ、おはよう。
- 全員 おはようございます。
- 荒木先生 今度君たちを受け持つことになった荒木寛二だ。今年は君たちも受験や就職で大変な年になると思うが、私もできるだけ君たちの力になりたいと思っているから、よろしく。それからこ

の人は、今度転校してきた白鳥直美さんだ。新しい土地でまだ慣れないから、みんなで仲良くしてあげてくれ。

林(モノローグ) 言われなくたって仲良くするぜ。

荒木先生 じゃ自己紹介しなさい。

白鳥直美 はい…。白鳥直美です。よろしくお願いします。あの一、学校のすぐそばの新しくできた教会に住んでいますから、皆さんもぜひ遊びに来てください。

吉本 (小声で)おい、牧師の娘らしいぜ。林、お前、手出すのやめたほうがいいんじゃないか？

林 ああ。だがいやにきれいな目をしていると思わないか、あの子？

伊藤 こいつ、すっかりノボせちまってやがんの。

林 うるさい！ なんかヤケに気品みたいなのが漂っていて、俺みてえな男には近寄りがてえや。伊藤、お前に譲ってやるよ。

伊藤 要らねえよ。牧師の娘なんて言ったら、俺、親に勘当されるよ。

吉本 面食いの伊藤も親には頭が上がらないらしいな。

全員 (クスクス笑い)

荒木先生 それでは、これから学級委員の選出を行う。立候補する者は手を挙げろ。

林 そう言えば松本が「やりたい」って言ってましたよ、先生！ なあ、みんな？

全員 (歓声と拍手)

松本 先生、僕はそんなこと言ってません。

林 ウソつけ。みんな、聞いたよな？

全員 (歓声と拍手)

荒木先生 それでは、松本と林に学級委員をやらせてもらうことにしよう。いいかな、みんな？

全員 (大喝采、笑い)

林 そりゃないですよ、先生。

荒木先生 自分でまいた種は自分で刈り取るんだな。

林(モノローグ) チェ、あの先公、最初から俺を目の敵にしてやがる。

ナレーション こうして新学期が始まりました。日がたつにつれ、クラスの中の打ち解けない雰囲気も和らぎ、みんなはそれぞれの新しい友達をつくっていきました。白鳥さんも、最初は牧師の娘ということで敬遠されがちだったのですが、元来明るい性格なので、すぐみんなと仲良くなり、その屈託のない笑顔に、みんな魅了されていきました。そんな中で、彼女に思いを寄せる両極端の2人の男子生徒がいました。そう、林君と松本君です。林君は、強がって、そんなことはおくびにも出しませんでしたが、心の中では――。

林(モノローグ) (切なそうに)直美…。お前の目はどうしてそう限りなく澄んでいるんだ？ 自分のかっこよさを鼻にかけたところがちっともないのはなぜだ？ お前に近づいたら、お前を汚しちまいそうで、近寄ることさえできない。直美 直美 直美 直美 直美、ああ直美！

ナレーション なんと、林君は生まれて初めて本当に恋をしてしまったのです。

一方、松本君はと言えば、友達もほとんどできず、休み時間になってもいつも一番前の席に座り、独りで静かに本を読んでいたのですが、彼の心の中にも大きな変化が起こりました。それまで勉強一筋に励んできた彼の心も、やっとなにに目覚めたのです。彼は、居ても立ってもいられずに、白鳥さんに生まれて初めてのラブレターを書き、一世一代の勇気を振り絞って、それを彼女の下駄箱に入れました。ところが、彼がそうするのを林君は見てしまったの

です。

林(モノローグ) あの野郎！ あのツラ下げて直美に手 出そうなんて…。

ナレーション すっかり動揺した林君は、下駄箱からその手紙を取り出すと、勢いに任せて封を切って読み始めました。

林(モノローグ) 何々？…「白鳥さん、あなたのことが頭から離れず、勉強も手に付きません。僕にとって、すべての数式の答えが“しらとりなおみ”の7字になってしまいました。」チエ、キザなこと書きやがる。「あなたは、殺伐とした僕の心の太陽です。光です。」ふん。「あなたのすばらしさはどこから来ているのでしょうか？ もしそれが聖書だと言うなら、僕も聖書を読みたいと思います。今度いつか聖書のお話を聞かせてください。」あのガリ勉野郎！ 聖書なんかエサにして、直美を釣ろうとしやがって、やることがきたねえ。チキショー、ヤキ入れてやる！

ナレーション そう吐き捨てると、林君はすさまじい憎悪の感情をむき出しにして、教室の松本君の机の前に来て、いきなり彼の胸ぐらをつかみました。ただならぬ殺気を感じたクラスの仲間は一。

伊藤 林、どうしたんだよ。

女子2 ねえ、誰か止めないと大変なことになるわよ。

林 うるせえ！ 外野は黙ってろ！ 俺はこのガリ勉野郎に話があるんだ。(松本に)おい、手紙読ませてもらったぜ。

ナレーション この一言で、松本君の顔は血の気を失いました。

松本 か、返してくれ！

林 イヤだね。土台でめえ、誰のお陰で学級委員になれたと思ってんだよ？ ガリ勉は勉強だけやってればいいんだ。おい、この手紙、今みんなの前で読んでやろうか？ え？

松本 き、君に人の手紙を読む権利はないはずだ。

林 権利だと？ そんなもん、クソっ食らえだ。俺は、お前のそのヒネた根性が気に入らねえ。

松本 君は卑劣だよ。人の手紙を勝手に読んで、僕に恥をかかせようとする。

林 卑劣はどっちだ！ お前は聖書なんかをエサにして、直美をてめえのものにしようとしてるじゃねえか。お前なんか、女が腐ったようなやつだ。クズだよ、お前は。

松本 さては君、僕に嫉妬してるんだね。

林 バカヤロー。誰がお前なんか嫉妬なんかするもんか。

松本 じゃ、どうしてそんなに怒るんだ？

林 そりゃ、そりゃお前みたいなイヤなやつから直美を守ってやるためだ。

松本 やっぱ嫉妬してるじゃないか。

林 うるせえ。つべこべ言うな！

効果音 (平手打ち。女子たちの悲鳴)

松本 (冷静に)君。君という男は、いつも力に任せて弱い者いじめをするんだな。君のほうこそ男のクズだよ。いいだろう。もっと殴りたまえ。僕は抵抗はしない。聖書の中にも、「なんじの右の頬を打つ者には、左の頬をも向けよ」と書いてある。

林 また聖書か。どこまで卑劣なんだ。よし、二度と無駄口たたけなくしてやろうじゃねえか。

ナレーション そう言って、正に殴りかかろうとした瞬間――。

直美 やめて～～！

ナレーション 白鳥さんは、思わず林君の腕にしがみ付きました。

直美 お願い、もうやめて！  
林 あ、い、いたんですか。そんな目で見ないでくださいよ。俺はただ、こいつの根性たたき直してやろうと思って…。

直美 (さえぎって)もうたくさん！ 憎み合うのは沢山よ！ どうしてなの？ どうしてもっと仲良くできないの？

松本 彼が僕の手紙を…。  
直美 聞いたわ。確かにひどいと思う。でも、私のことでどうしてそんなにいがみ合わなくちゃいけないの？ どうしてあなたたち、愛し合えないの？ 赦し合うことができないの？ 私はね、私の自己中心の醜い罪を赦して下さったイエス様って方を知るようになってから、人を愛せるようになったわ。イエス様はね、「あなた方は互いに愛し合いなさい」っておっしゃったの。ねえ、お願いだから二人ともお互いに赦してあげて。

林 「互いに愛し合え」…って言うんだったら、直美、いや白鳥さんも俺を愛すんですか？ いや、変なことを聞いちまったな。

直美 もちろんよ。  
林 ヤッホー！  
直美 イエス様が愛してくださってるんだもん。  
林 誰を？ 俺をですか？  
直美 そうよ。林君だけじゃないわ。松本君も吉本君も伊藤君も、みんなよ。  
林 なんかもよく分かんないけど、俺が人に愛されているって聞くのは、悪い気はしないな。松本、仲直りしよう。握手だ。どうも俺は彼女に愛されてるらしい(小さく笑い)。  
松本 俺もそうらしい。  
林 何、お前が？  
直美 そうよ。  
林 まあいいや。とにかくその、俺を愛してくれるっていうイエス様とかいう人に会ってみよう。(周りに)よし。おい、学級委員命令だ。みんなで教会へ行こうぜ！

聖書の言葉 「あなたがたに新しい戒めを与えましょう。あなたがたは互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、そのように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。」(ヨハネの福音書 13:34)

<完>